

音楽科は、7月4日(月)、高甫小学校で、山之内東小学校教頭の矢崎進一先生をお迎えして音楽科研究委員会内の公開授業を行いました。

4年生の、はつらつとした歌声から児童達の意欲的な姿をうかがうことができました。導入時の歌は児童が指揮をし、堂々と表現していました。実証授業では、「白い雲」という楽曲でイメージをふくらませる追究をしました。クレッシェンドにこだわった班は、同じ箇所を何回も繰り返し、「イメージ通りになるためにどうしたらよいか」という視点から意見を出し合いました。「次のフレーズにつなげていくように大きくしたらどうか」「声をもっときれいにしたら良いのではないか」「ひとりだけでなくみんなで大きな声をだそう」など、1回1回歌い方を工夫する姿や追求する姿がみられました。このような学習を通して、音楽的な素地力・感性が育っていくのではないかと思います。また、発表する最後の場面においては、自分達の願いを聴いている人たちに伝えてから発表しており、聴く人は耳を澄ませて友達の表現を聴き、「～ところが良かった。」という的確な評価をしていました。本時は、斉唱の取り組みでしたが、次時からは二部合唱に挑戦するという事で、参観者の先生方による、「白い雲」の二部合唱をしました。大人の美しいハーモニーを聴いて、児童達は「私達も二部合唱で歌いたい、きれいな声で歌いたい」と感動すると同時に目標が持てたようでした。

また、授業後には、充実した研究会が持たれ、矢崎先生からは日頃の授業で生かされる指導法やご指摘を頂きました。



#### 研究会における矢崎先生からのご指導

子ども達が素直で元気が良い。友の良さを認めあい、自分の意見をのびのびと語ることが出来ており、心の教育をしている。

先生の、この曲へ寄せる思いを感じた。雲や写真の準備、環境作り、先生のやさしさが感じられる声かけが、音楽とともに子どもを包んでいた。



クレッシェンドを追究していた班があったが、どんなクレッシェンドがいいのか、雲が広がる、わいてくるさまを感じさせる、また様々なクレッシェンドを比較させるなど教師がコツを教えてあげることが必要。強弱のイメージ、大きさと小ささの度合い、強い、弱いイメージはどんなものなのか、ゲーム感覚的にやってみるのも良い。音楽の授業で効果があると教師側が判断したものはどんどん取り

り入れていくことを心がけたい。

伝え合う活動、認め合う子どもの姿に感動した。

感じたものを表現したいというエネルギーが大事。身体で良いと感じたものが大事。さらにこれを分析していくと、音楽の楽しさがわかってくるし、自分がもう少しここをがんばらなければという評価につながってくる。

伝え合う活動、認め合う子どもの姿に感動した。